



2026年10月5日

各 位

会 社 名 ク リ ン グ ル フ ァ ー マ 株 式 会 社
住 所 大 阪 市 北 区 中 之 島 四 丁 目 3 番 5 1 号
Nakanoshima Qross 未来医療 R&D センター10 階
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 安 達 喜 一
(コード番号: 4884 東証グロース)
問い合わせ先 取 締 役 経 営 管 理 部 長 村 上 浩 一
TEL. 06-7653-6728

提携先のクラリス・バイオセラピューティクス社、 米国眼科学会 (AAO) 2026 年次総会での発表のお知らせ

当社の業務提携先であるクラリス・バイオセラピューティクス社 (以下「クラリス社」) は、2026 年 10 月に米国ニューオーリンズで開催される米国眼科学会 (American Academy of Ophthalmology: AAO) 2026 年次総会において、同社が開発を進める CSB-001 (orempermin alfa 点眼液) の角膜上皮幹細胞疲弊症 (Limbal Stem Cell Deficiency: LSCD) における有効性に関する口頭発表を行うことを発表しましたので、お知らせいたします。

詳細につきましては、クラリス社によるプレスリリースをご覧ください。

<https://www.clarisbio.com/news/press-releases/09-29-2026/>

発表演題は「Recombinant Human Hepatocyte Growth Factor Improves Visual Acuity in Limbal Stem Cell Deficiency」で、LSCD に対する組換えヒト dHGF タンパク質 (5 アミノ酸欠損型、国際一般名称: oremerpermin alfa) の視力改善に関する内容となっています。

また、クラリス社は AAO 併催の投資家・業界向けイベント「Eyecelerator @ AAO 2026」においても企業プレゼンテーションを実施する予定です。

当社は今後もクラリス社との連携を強化し、orempermin alfa のグローバルな開発及び事業化の推進に取り組んでまいります。

以上

クラリス・バイオセラピューティクス社について <https://clarisbio.com/>

クラリス社は、眼科領域において組換えヒト dHGF タンパク質の医薬品開発を推進する米国ハーバード大学発の未上場バイオベンチャーです。クラリス社は、現在、角膜上皮幹細胞疲弊症及び角膜瘢痕を対象とする臨床試験を米国で実施しています。

当社とクラリス社は、組換えヒト dHGF タンパク質の安全性情報の共有および製造プロセスの最適化に関する協力体制を構築しています。

角膜上皮幹細胞疲弊症 (Limbal Stem Cell Deficiency: LSCD) について

角膜上皮幹細胞疲弊症は、黒目のふちにある角膜の“修復役”の幹細胞が減ってしまう病気です。幹細胞が働かなくなると、角膜の表面が治らなくなり、濁ったり、結膜（白目の細胞）が入り込んだりして視力が下がります。原因には化学外傷、熱傷、免疫疾患、先天異常などがあり、進行すると日常生活にも支障が出ます。治療には、損なわれた角膜の表面を再建するための培養角膜上皮シートなどの再生医療が用いられますが、承認された薬物治療は存在していません。

HGF (Hepatocyte Growth Factor, 肝細胞増殖因子) について

HGF は、成熟肝細胞の増殖を促進する因子として発見された生理活性タンパク質であり、その後の研究から細胞増殖のみならず、細胞運動促進、抗細胞死、形態形成誘導、血管新生など様々な組織・臓器の再生と保護を担う多才な生理活性を有することが明らかにされました。

HGF は神経保護作用や軸索伸展作用も有し、神経難病とされる脊髄損傷に対する薬理効果は、慶應義塾大学再生医療リサーチセンター 岡野栄之センター長及び同大学医学部整形外科学教室 中村雅也教授らのグループの研究により明らかにされています。また、ALS に対する薬理効果の可能性は、東北大学大学院医学系研究科神経内科学分野 青木正志教授らのグループの研究により示されました。新たな神経難病治療薬として、HGF への期待が高まっています。

他方、京都府立医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 平野滋教授らのグループは、HGF の抗線維化作用に着目し、線維化疾患である声帯癬痕に対する薬理効果を明らかにしました。HGF には、声帯癬痕を端緒として、他の線維化疾患への適応拡大の可能性が期待されています。

クリングルファーマ株式会社について <https://www.kringle-pharma.com/>

当社は「難治性疾患治療薬の研究開発を行い、難病に苦しむ患者さんに対して画期的な治療手段を提供し、社会に貢献すること」を企業理念とし、希少疾病を対象に oreempermin alfa（オレメペルミン アルファ、組換えヒト dHGF タンパク質の国際一般名称）の自社開発を推進するバイオベンチャー企業です。

現在、oreempermin alfa については、日本国内において、脊髄損傷急性期を対象とする第Ⅲ相追加臨床試験及び声帯癬痕を対象とする第Ⅲ相臨床試験を実施しています。脊髄損傷急性期試験では症例組入れを進めており、声帯癬痕試験では症例組入れを完了し、経過観察を継続しています。一方、米国においては、FDA（米国食品医薬品局）に対する IND（新薬治験開始）申請を行い、脊髄損傷急性期を対象とする第Ⅲ相臨床試験の開始に向けた準備を進めています。

当社は、HGF タンパク質医薬品の社会実装を通じて新たな価値を創造し、人々の健康と幸せに貢献してまいります。